

実践のまとめ（小学校3年 道徳科）

授業公開日 令和7年11月27日 第5校時
授業者 胎内市立きのと小学校
教諭 塚野 聡仁

1 研究テーマ

**道徳的課題を自分事として捉え、主体的に自己の生き方を見つめ直し、
自分なりの納得解を見出す道徳授業
～主語を「あなた」とした発問と事前事後アンケートの導入～**

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

特別の教科「道徳」の学習指導要領では、道徳的課題を自分事¹として捉え、自分の体験やそのときの感じ方と重ねながら、自己との関わりの中で考えることで、道徳的価値についての理解を深めることが大切であるとされている。

今年度、授業者が担当する学級は、第3学年26名（男子13名・女子13名）である。大変素直で、学習意欲が高く、どの授業にも真剣に取り組むことができる。ただ、徐々に中学年らしいトラブルが見られるようになり、友達関係の中で自分の意見を押しとおそうとしたり、折り合いをつけて接することが難しかったりする姿が見られるようになった。これは、相手の意見を最後まで聞いたり、その背景にある思いをくみ取ったり、相手の言い分に納得して受け止めたりすることができていないからであると考えられる。

また、これまでの指導では、児童の気持ちをしっかりと受け止め、聞くように心がけてきたが、授業の終盤では児童の考えの変容や深まりを促すことができず、最終的には教師側からの道徳的価値の押し付けになってしまっていた。これは、児童が主体的に考えたり、気付いたりしながら、自己を見つめ直す中で、学級で話し合われた新しい価値観に対して自分なりの捉えがしっかりとできていなかったからであると考えられる。また、自己の変容にそもそも気付いていないからこそ生じている課題であるともいえる。

このような生活実態や学習指導実態を踏まえ、道徳的課題を自分事として捉え、主体的に自己の生き方を見つめ直し、道徳的価値に対する自分なりの納得解²を見出すことができる姿を具現化するために、本研究テーマを設定した。

(2) 研究仮説

道徳科の授業において、主語を「あなた」とした発問と事前事後アンケートを行えば、児童が道徳的課題を自分事として捉え、主体的に自己の生き方を見つめ直し、自分なりの納得解を見出す授業となるであろう。

(3) 研究テーマに迫るために

① 主語を「あなた」とした発問（道徳的課題を自分事として捉えるための発問の工夫）

道徳的課題を自分事として捉えることができるようにするために、発問を工夫する。具体的には、発問における主語を題材の登場人物ではなく、「あなた」とすることで当事者としての感覚を強調する。さらに、児童の考えの理由を問うことで、児童が自分の考えをより深めることができるようにする。これにより、児童は道徳的課題を自分事として捉えることができると考える。

② 事前事後アンケートの実施（主体的に自己の生き方を見つめ直し、自分なりの納得解を見出すための発問の工夫）

授業の前に事前アンケートを実施し、本時の教材で扱う内容項目に関するイメージを把握する。授業後には同様のアンケート（事後アンケート）を行い、事前と事後のアンケートを比較する。それにより、内容項目に対する児童の考えの変容や深まりを検証する。事前事後のアンケートでは、事前事後同様の内容で、授業のねらいに迫る発問（「友達を大切にするために、どんなことができますか？」等）を用いる。

内容項目について、児童が今までもっている価値観と授業後に拡大・拡張された価値観をそれぞれアンケートに記述し比較することで、新たな価値に気付くとともに、道徳的価値の深まりを促進し、児童自身が考えの変容に気付けるようにする。授業では、振り返りの場面で事後アンケートを取り入れ、事後アンケートに記述される内容を納得解として扱う。

¹ 自分事：本研究では、主人公ではなく、自分だったらどう考えるかについて、明確に考えをもつことができた状態を自分事と定義する。

² 納得解：共通解（主題や価値に対して他者と共有した解、本研究ではまとめとする）が基となり、主題や価値が自己の価値観として形成された解。納得解を獲得した状態は、価値に対する理解を深めている状態を指すと捉えることができる。

(4) 研究テーマにかかわる評価

事後アンケートにおける記述内容で評価する。自分の納得解を具体的な言葉で記述することができる姿を目指す。個の評価については、事前事後のアンケートを比較し、内容項目に関する価値観の深まりや広がり进行评估する。集団の分析については、1つの手法としてテキストマイニングを活用する。

3 指導計画（本時6/8時間）

(1) 主題名

よい友達に（内容項目B-10 友情、信頼）

(2) 教材名

「なかよしだから」（教科書名 東京書籍「新編 新しいどうとく3」）

(3) 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値

「友情、信頼」の友情とは、友達同士の間にも生まれる情愛であり、信頼とは、相手のことを理解し信じて頼ることである。友達は、家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係は、子どもにとって最も重要な人間関係の一つである。友達関係は対等な関係であり、共に学習したり遊んだりして互いに影響し合って構築され、高め合う関係になる。友達と信頼関係を築くためには、友達を疑わず信じて相手の立場になって相手のためになることを考える心をお互いがもたなければならない。

「友情、信頼」（B-10）については、低学年で「友達と仲よくし、助け合うこと」について学習してきた。これを受けて、中学年では、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことについて学習している。このことは、高学年での「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」の学習へと発展していく。

② 教材と児童

本学級の子どもたちは、休み時間等で仲良く遊び、係活動や当番活動、班での活動も友達と協力している。しかし、自分のことは棚に上げて友達の行いを強く指摘したり、友達の行動の背景を知ろうとせず一方的に決めつけてしまったりして、トラブルに発展することがよくある。また、友達から注意されても、受け入れたり認めたりすることができず、トラブルになることも多い。これは、友達のことを思って伝えたり、受け入れたりする友達関係の素晴らしさに気付くことができていないからであると考えられる。そこで、友達と理解し合い、信頼し、助け合うことができるように、この題材を用いることとする。お互いに相手の間違いを伝え、受け入れることができる友達関係を築いていこうとする態度を育てたい。

③ 手立て

ア 主語を「あなた」とした発問（道徳的課題を自分事として捉えるための発問の工夫）

主人公の立場に立った際、自分だったらどのような言葉をかけるか考えるために、主語を「あなた」として発問する。自己を主人公に投影させることで、自分事として捉えることができるようにする。

イ 事前事後アンケートの実施（主体的に自己の生き方を見つめ直し、自分なりの納得解を見出すための発問の工夫）

事前事後アンケートでは、「友達を大切にするとはい、どうすることですか？」と問う。事前に、友情、信頼に関する児童の捉えを把握し、授業序盤で児童に示す。また、授業終盤の振り返りの際、事後アンケートに取り組む中でも活用することで、実践前後で自分の価値観が深まったり広がったりしたことを認識できるようにする。

(4)単元の構想（他の教科、領域との関連）

他の教科、領域との関連については、以下の表に示すとおりである。学習過程については、第3学年で取り扱う内容項目のうち、互いに密接に関連し合う内容項目の中から8つの教材を選んで重点指導内容とした。

1学期は、「善悪の判断、自律、自由と責任」「規則の尊重」を重点指導内容として、3つの題材（「SL公園で」・「作ひんのかち」・「きまりじゃないか」）を重点的に指導する。

いずれの題材も個の判断が要求され、重要視される内容である。児童の実態を踏まえたときに、まずは児童一人一人のしっかりとした規範意識を育てたいと考えたからである。

2学期は、個の視点から友達との関係性や社会とのつながりといった、集団生活の視点で考えることが大切になってくる内容を取り扱う。「友情、信頼」「公正、公平、社会正義」を重点指導内容として、3つの題材（「いいち、にいっ、いいち、にっ」・「みさきさんのえがお」・「なかよしだから」）を重点的に指導する。

1学期とは異なり、物事を捉える視点をより広くもち、自分と関係する友達のことを考えたり、社会とのつながりを意識したりして生活してほしいという意図のもと、上記の題材を重点指導内容とした。

	教科・領域	道徳科	教育活動等・その他
1 学 期	人権教育、同和教育 （われたかびん） 特別活動・学級活動 学級力の話し合い 学級目標 学級で大切に したいこと	【第1学期重点指導内容】 「SL公園で」 （善悪の判断、自律、自由と責任） ↓ 「作ひんのかち」 （規則の尊重） ↓ 「きまりじゃないか」 （規則の尊重）	始業式、終業式、全校集会等 の校長講話 生徒指導部の話 運動会 なかよしオリエンテーリング
2 学 期	人権教育、同和教育 （ドッジボール） 特別活動・学級活動 学級力の話し合い	【第2学期重点指導内容】 「いいち、にいっ、いいち、にっ」 （友情、信頼） ↓ 「みさきさんのえがお」 （公平、公正、社会正義） ↓ 「なかよしだから」 （友情、信頼）本時	始業式、終業式、全校集会等 の校長講話 生徒指導部の話 マラソン大会 作品展・お仕事体験 友達いっぱいチャレンジ ワールド いじめ見逃しゼロスクール 集会
3 学 期	人権教育、同和教育 （橋） 特別活動・学級活動 学級力の話し合い	【第3学期重点指導内容】 「ゴミステーション」 （勤労、公共の精神） ↓ 「みんなの学校なのに」 （よりよい学校生活、集団生活の充実）	始業式、終業式、全校集会等 の校長講話 生徒指導部の話 長縄大会 六年生に感謝する会 卒業式

個の判断が
要求され、
重要視され
る内容

友達との関係性や社会とのつな
がりといった、集団生活の視点で
考えることが大切になってくる
内容

広い視野をもち、公共のために自
分ができる行動を考える内容

重点指導内容として取り扱う8つの題材は、互いに関連した内容項目の価値がより深まったり広がったりするように、その配列を工夫した。本時は、2学期の集大成として中学年で大切にすべき「相手のために考えて行動すること」に焦点をあてる。

また、上記の表に示す重点指導内容を指導する過程で大切になるのが、様々な既習事項との関連である。自分の体験やこれまでの道徳での学びを有機的に関連させ、つなげた上で、新しい教材と出会い新しい価値に気付いてほしいと考えた。そのために、学びの軌跡（履歴）を残しておく必要がある。よって、本研究では、道徳の学びをポートフォリオ化し、いつでも参照することができるように、以下の2つの手法をとることとした。

○道徳掲示 : 重要指導内容として授業を行った題材について、その題材での学びを教室壁面に拡大掲示することで、児童が手がかりとして用いやすくなるを考える。児童から出た言葉で記述することで、学びを想起しやすくなる。また、生活体験として蓄積されていく様々な内容も、道徳掲示の内容に組み込み、視覚化することで、関連させて考えやすくする。

○道徳ファイル : 今までのワークシートをストックし、学びの履歴として蓄積する。シートを振り返ることで、新しい価値について考える手立てとなる。また、読み直すことで、児童自身が、今までの考えや意見との変容に気付きやすくなり、振り返りに生かすことが容易にできるようになると考える。

(5) 本時のねらい

主人公と実さんの友達関係から、友達のためになることは何であるか考えることを通して、その場の一時的な優しさは友達のためにならないことに気付き、本当の意味で友達を大切にしようとする心情を育てる。

(6) 本時の展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
とらえる 5分	・友達についての事前の捉えを共有する。	○アンケートの結果を見てみましょう。 (事前アンケート:「友達を大切にすることは、どうすることですか?」) ●困っているときに助けることは大事だよな。 ●泣いているときに声をかけてあげることが大切になっている証拠だよ。 ○今日は友達についての学習です。 (教科書P141のL13までを読み聞かせる。)	◇事前アンケートを実施し、その結果をテキストマイニングにかける。 ◇大型テレビにアンケート結果を映示する。
考える 15分	・主人公の立場に立って、自分ならどうするか考える。(自分事)	○「あなた」が「ぼく」の立場だったら、実さんにどんな言葉をかけますか?ワークシートに書きましょう。 ●えー、そんな教えてくれたっていいじゃん。 ●ボール投げのお返しをしてくれないなんてひどい。自分だけずるいや。 ○「ぼく」はこの後どうしたのでしょうか。最後まで読んでみましょう。(最後まで読み聞かせる。)	◇自分事として捉えることができるように、自分だったらどんな言葉をかけるか考えさせる。 □自分だったらどうするか具体的な声かえを考えることができる。 (ワークシート)
学び合う 20分	・実さんの考えを想像し、学級全体で友達についての考えを広げる。	○実さんは「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言いました。なかよしとは、どういうことですか? ●親友のことです。 ●いつも一緒に遊ぶ人のことです。	◇なかよしの理解が人によって異なることから、本時の課題を提示する。
◎本当のなかよしの友達とは、どのような友達のことでしょうか?			
		○実さんは、どんな気持ちで「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったのでしょうか。 ●友達のためにならないから。 ●将来のためにならないから。 ●今はよくても、算数の力が身に付かなくて、将来悲しい思いをするのは「ぼく」だから。 ●先生に見つかったら、両方怒られるから。	◇友達(相手)のことを考えての行動であることに気付かせるために、適宜問い返しを行う。

		<ul style="list-style-type: none"> ●なかよしだからと言って、見せていいわけではないから。 ●ルールだし、宿題は自分でやるものだから。 <p>○本当のなかよしの友達とは、どのような友達のことをいうのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●相手の将来まで考えて行動できる友達です。 	◇友達について、多面的・多角的に考えることをとおして、価値観の変容を促す。
◎本当のなかよしの友達とは、相手のことを一番に考えて、相手が今いやかもしれないけれど、将来のために正しい行動ができる友達のことである。			
振り返る 5分	・振り返りを書く。	<p>○今日学習したことを踏まえて、振り返りを書きましょう。 (事後アンケート：「友達を大切にすることは、どうすることですか?」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●友達の将来を考えて、正しい行動をすることです。 ●たとえ今嫌な気分になっても、友達のことを一番に考えた行動をすることです。 	<p>○一方で、言われる方も一時的に楽になることではなく、自分を本当に大切にしてくれる行動を受け止める心をもつ必要性をおさえる。</p> <p>□共通解である「まとめ」を踏まえて、自分の言葉で納得解を記述できている。 (ワークシート)</p>

(7) 本時の評価

① 評価の視点

友達を大切にしている在り方が、事前アンケートのときよりも深まったり、広がったりしているかどうかを見取る。共通解である「まとめ」を踏まえて、自分の言葉で納得解を記述できているかどうかを見取る。

② 評価の方法

ワークシートへの記述

4 指導の実際

(1) 授業のねらいと「納得解」へのアプローチ

本時では、仲が良いからといって甘やかすのではなく、相手の成長を願う実さんの姿をとおして、児童が「友達を大切にすることはどうすることか」について自分なりの納得解を見出すことを目指した。特に「あなた」を主語にした発問により、実さんの「なかよしだから、なお教えられない」という言葉の真意を、自分自身の言葉で言語化させることを重視した。

(2) 児童の変容とワークシートに見る「学びの足跡」

① 「あなた」が「ぼく」の立場だったら（実さんへの反応）

はじめ、実さんの厳しい態度に対して、戸惑いや不満の言葉を記述した児童の意見を取り上げた。「なんで教えてくれないんだよ」等の言葉が出された。その後、実さんの優しさに気づき、前向きに捉えた児童の意見も、クラス全体で共有した。「分かったよ。自分でがんばるよ。ありがとう」や「自分でやるよ。そのかわり、分からないところは教えてね!」といった意見である。

② 実さんの「なかよしだから」という言葉の真意（価値の深化）

実さんの立場に立って考えた記述からは、単なるルールの遵守ではなく、相手の将来や成長を願う「信頼」の姿が浮かび上がった。

- ・友達に頭が良くなってほしい。ここで教えたなら本人のためにもならない。
- ・自分でやらなきゃ、かしこくなれない。
- ・もし教えたなら、テストでも100点を取れないかもしれない。

などの意見がそれにあたる。

③ 終末：友達を大切にすることはどうすることか（納得解の構築）

授業のまとめとして、児童はそれぞれが導き出した「納得解」を記述した。

- ・きびしくしつつ、やさしくしつつ。時には助けない。時にはケンカも起きるかもしれないけれど、それでも仲良く一緒にいる。
 - ・友達だけダメなこともある。こうなってほしいと思えば（厳しいことも）わかってくれる。
 - ・相手の将来のことを考える。
 - ・時にはきびしく、時にはやさしく。正しい事をする。
- などの記述が見られた。

5 成果と課題

(1) 成果

① 事後アンケートのテキストマイニング分析

授業の終末に実施した「友達を大切にすることは、どうすることですか？」という問いに対し、児童が記述した「納得解」をテキストマイニングにかけ、事前アンケート（単元前）と比較分析した。本分析では、「友達を大切にすることは、どうすることですか？」という設問に対する児童の自由記述を対象に、語彙の出現傾向および意味的まとまりを検討した。

その結果、記述内容は主に、①思いやり・共感、②具体的な援助行動、③規範・正しさの共有という三つの視点で整理することができた。とりわけ「やさしくする」「助ける」「気持ちを考える」といった語の頻出は、児童が友達関係を互いに思いやり、助け合う関係として捉えていることを示している。

一方で、「正しいことをする」「悪いことは注意する」「見て見ぬふりをしない」といった表現も多く見られ、友達を大切にすることが単なる迎合や同調ではなく、規範を共有し合う関係として理解されている点が特徴的である。

このことから、児童にとっての「友達を大切にする行為」は、「やさしくすること」と「正すこと」という一見対立しうる行為を両立させる概念として内面化されていると考えられる。これは、日常の学校生活や道徳的指導の中で培われた価値観が、児童の言語表現に反映された結果であると推察される。

出現頻度の高いキーワードの変容

事前：「遊ぶ」「貸す」「助ける」「優しい」が上位を占め、「楽しさの共有」や「直接的な援助」に価値が集中していた。

事後：「将来」「正しい」「（時には）助けない」「自分（でやる）」「厳しく」という語が新たに数多く出現した。

文脈の変容（共起ネットワーク分析）

「助ける⇒優しい」という単純な結び付きから、「将来⇒考える⇒厳しい」や「正しい事⇒大切にすること」といった、相手の成長を長期的な視点で見守る文脈へと深化が見られた。特に、ある児童の「きびしくしつつ、やさしくしつつ」という表現は、対極にある二つの概念を統合して捉えた、本学級における「納得解」の代表例として挙げるができる。

② 「あなた」を主語にした発問による自分事化

ワークシートの記述から、児童が実さんの行動を「他人の出来事」ではなく「自分の選択」として捉えたことが伺える。例えば、「こうなってほしいと伝えればわかってくれる」という記述は、友達関係における「相互信頼」を基盤とした意思決定を自分事として捉えた成果である。

(2) 課題

① 価値の日常化への支援

授業内では「友達を大切にすること」という多様な在り方を共有することができたが、これが実際の休憩時間のトラブルや宿題の貸し借りといった場面で、即座に実践できるかは別問題である。道徳ファイルや掲示物（ポートフォリオ）を活用し、日常生活で葛藤が生じた際に「あの時の実さんの言葉」や「自分の納得解」を想起させる仕組みづくりを強化する必要がある。

②多様な「納得解」の許容と整理

児童の記述の中には、「大切にやさしくしたり、ありがとうと言ったりする」という記述のように、従来通りの「優しさ」を再確認した児童もいる。「厳しい＝正解」という新たな価値の押し付けにならないよう、場面や状況に応じて「寄り添う優しさ」と「突き放す優しさ」をどう使い分けるべきか、さらに議論を深める余地がある。

③ICTの更なる活用

今回は手書きのワークシートを基に分析したが、テキストマイニングの結果を授業中にリアルタイムで児童にフィードバックできれば、学級全体の考えの変容をより客観的にメタ認知させることができたと考える。

参考文献

- ・田沼茂紀(2020)「問いで紡ぐ小学校道徳科授業づくり学びのストーリーで『自分ごと』の道徳学びを生み出す」 東洋館出版社
- ・田沼茂紀(2022)「道徳科教育学の構想とその展開」北樹出版